

『歴史総合，世界史探究』

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和7年度の共通テストは，新課程の学習指導要領の下で学習した高校生が受験した最初の試験となった。歴史科目は，「歴史総合」『歴史総合，日本史探究』『歴史総合，世界史探究』の2科目・1出題範囲が用意された。そのうち，『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」第2問と『歴史総合，世界史探究』の第1問とが共通であった。よって，『歴史総合，世界史探究』においては，主に第2問以降について意見・評価を行うこととする。第1問については，『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」の項目を参照いただきたい。

また，『歴史総合，世界史探究』の追・再試験においては，本試験の前文で言及した受験者数や平均点等についての分析は避け，出題方針，内容及び難易度等について考察する。なお，評価にあたっては，報告書（本試験）21ページに記載の8つの観点により，総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

(1) 評価の観点

年度・出題数 設問形式	令和7年度	
	出題数	(出題率)
主に知識・技能を評価するもの	13	(54.2 %)
主に思考・判断を評価するもの	11	(45.8 %)
合 計	24	(100.0 %)
(うち概念的理解)	8	(33.3 %)

(2) 分野別の出題数・出題率

年度・出題数 分野	令和7年度	
	出題数	(出題率)
政治史	13	(54.2 %)
社会経済史	6	(25.0 %)
文化史	2	(8.3 %)
複数分野に関わる	3	(12.5 %)
合 計	24	(100.0 %)

* 知識・技能を評価する問題と思考・判断を評価する問題の分類は，当外部評価分科会の判断による。

(3) 時代別出題数・出題率

年度・出題数 時代	令和7年度	
	出題数	(出題率)
古代史	4	(16.7 %)
中世史	2	(8.3 %)
近世史	4	(16.7 %)
近代史	8	(33.3 %)
現代史	2	(8.3 %)
[うち戦後史]	2	(8.3 %)
複数時代混合	4	(16.7 %)
合 計	24	(100.0 %)

(4) 地域別出題数・出題率

年度・出題数 地域	令和7年度	
	出題数	(出題率)
西欧・北米	11	(45.8 %)
東欧・ロシア	3	(12.5 %)
東・内陸アジア	3	(12.5 %)
南・東南アジア	3	(12.5 %)
西アジア・アフリカ	1	(4.2 %)
中南米・オセアニア	0	(0.0 %)
複数地域に関わる	3	(12.5 %)
合 計	24	(100.0 %)

中世(9c～14c)・近世(15c～17c)・近代(18c～19c)・現代(20c～)を判断の目安とする。

(1)～(4)については，「世界史探究」該当部分(第2問～第5問)のみ。

第1問については，「歴史総合」部分を参照のこと。

第1問 『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」の第2問と同じ。

第2問 国家の形成や発展の過程で生じる対立やその影響について

問1 文章中の空欄に入る人物の事績として最も適当なものを選択する問題。知識・技能を問う問題。

問2 資料1～3に記された出来事について，古いものから年代順に正しく配列したものを選択する問題。読み取った情報を基に，知識を踏まえて事象同士の関連性を考察する思考力・判断力・表現力等を問う良問。平民派の政治家に関する資料に統一されており，ローマ社会が共和政から帝政へと移り変わる過程について考察することが求められている。

問3 大陸におけるイングランドの主な領土及び勢力下にあった主な領域について，古いものか

ら年代順に正しく配列したものを選択する問題。知識・技能を問う良問。中世ヨーロッパの領土に関する概念的理解を基に、会話文や地図から読み取った情報を踏まえて地図に落とし込むことが求められている。

問4 百年戦争が終結したとされる年とその根拠になると考えられる事象の組合せとして正しいものを選択する問題。会話文から、イングランドの勢力状況を読み取り、戦争終結の根拠について選択する思考力・判断力・表現力等を問う問題。問3の地図と組み合わせて、終結の年を判断させる問題にすると、地図から得られる情報を基にした思考力・判断力・表現力等を問う良問になり得た。

問5 生徒たちが作成したメモの正誤について述べた文として最も適当なものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う良問。百年戦争が終結したとされる根拠を抽象化し、他の歴史的事例に当てはめて考察することが求められている。

問6 会話文中の空欄に入る国の名と語句との組合せとして正しいものを選択する問題。会話文と独立案のスライドを参考にしながら、インドの独立に関する概念的な理解を問う知識・技能を問う問題。

問7 インドの分類に関して述べた文について、正しいものの組合せを選択する問題。インド以外の三つの国が分類化されている要素について考察し、インドの分類について判断する思考力・判断力・表現力等を問う良問。インドの独立に関する概念的理解を求めており、問題の構成が優れている。

第3問 世界史における女性の社会的地位について

問1 レポート中の空欄に入る文として最も適当なものを選択する問題。知識・技能を問う問題。

問2 資料から読み取れる事柄の正誤の組合せとして正しいものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。二つの資料とレポートから読み取った情報と16世紀ヨーロッパの包括的理解を関連付けて、魔女とされた女性について考察することが求められる。

問3 下線部④の位置として最も適当なものを選択する問題。知識・技能を問う問題。

問4 仮説の根拠になると考えられる事象について、正しいものの組合せを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う良問。メモからアチェにおけるイスラームの性別規範と貿易と権力の関係を読み取り、仮説の根拠を検討し、女王が4代続いた因果関係について考察することが求められる。仮説の根拠になると考えられる事象として、複数の視点を挙げたところに多面的・多角的な見方を促す工夫がみられる。

問5 図とメモから読み取れる事柄と、図のプレートが設置された時期のアメリカ合衆国について述べた文とについて、最も適当なものの組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。「女性の権利のための大会」が開催された時代背景や記念プレートが設置された意義などを考察させると、思考力・判断力・表現力等を問う問題になり得た。

問6 19世紀のアメリカ合衆国における女性の活動について、最も適当な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。選択肢が全て正命題である点は評価できるが、中間のテーマに沿った選択肢にすると、中間との関連性が深まったのではないかと。

第4問 世界史上の様々な交易・貿易とその影響について

問1 会話文に登場する皇帝の治世に起こった出来事について、最も適当な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。

問2 張騫が皇帝に勧めた図中のルートと、その理由とについて、最も適当なものの組合せを選択する問題。資料から、前漢期の交易ルートについて読み取り、東西交易についての概念的理解から地図に示されたルートを選択する思考力・判断力・表現力等を問う問題。文字資料と組

み合わせた地図の使い方に工夫がみられる。

問3 会話文中の空欄に入る文として最も適当なものを選択する問題。表の統計を基に奴隷貿易に影響を与えた歴史的事象について考察させる，思考力・判断力・表現力等を問う良問。会話文と統計資料を組み合わせ，数値で示されていることを，アフリカの奴隷貿易に関する知識を用いながら言語化して思考することを求めている，資料の使い方に工夫がみられる。

問4 会話文中の二つの空欄に入る文の組合せとして正しいものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う良問。資料と会話文から読み取った情報を踏まえ，奴隷貿易と奴隷制についての概念的理解を基に，イギリスの姿勢について考察することが求められている。

問5 文Ⅰ・Ⅱとメモ中の空欄に入る条約が締結された時期とについて，古いものから年代順に正しく配列したものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。Ⅰはイリ地方に関する内容となっているが，Ⅱは遼東半島に関する内容となっており，領土問題を中央アジアにおけるロシアと清の交渉に限定するとより良い問題になり得たのではないかと。

問6 グラフから読み取れる事柄と，ロシア帝国や清朝のそれぞれの勢力範囲に関わる事象とについて，最も適当なものを選択する問題。知識・技能を問う問題。グラフから読み取れる，19世紀におけるロシア帝国への清朝からの輸入総額の大幅な増加の原因や背景について問う問題にすると，思考力・判断力・表現力等を問う問題になり得たと思われる。

第5問 人々が直面した困難や危機についての班別学習について

問1 パネル中の空欄に入る語句と文との組合せとして正しいものを選択する問題。知識・技能を問う問題。空欄「イ」に入る文を選択する際の誤命題について，受験者の思考を促すような工夫が求められる。

問2 メモ中の空欄に入る文と語句の組合せとして最も適当なものを選択する問題。知識・技能を問う良問。貿易制限による影響について，資料を丁寧に読み取ることで，デフレーションについての概念的理解に至る。銀本位制についての理解が，現代の経済についての理解にも転移される点が評価できる。

問3 パネル中の空欄に入る人物の名と語句との組合せとして正しいものを選択する問題。知識・技能を問う問題。ロシアの農奴解放令に起因したポーランドの蜂起の背景に迫るパネルの構成が良い。一方で，1861年の農奴解放令と1864年の農奴解放令を比較し，それぞれに類似する歴史的事例を類推によって問う問題にすると，思考力・判断力・表現力等を問う問題になり得た。

問4 会話文中の空欄に入る語句と会話文から読み取れる事柄とについて，最も適当なものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う良問。会話文から，アルザス地方に住む「マルグレ＝ヌ」と呼ばれた人々の功罪について考察させる工夫がみられる。歴史総合で学んだことを世界史探究で深め，過去の出来事に関する和解が決して容易ではないことを示すことで，歴史の本質について考え続けることを促す問題。

問5 資料から読み取れる事例が，各班の取り上げた事例とどのように類似しているかについて述べた文として最も適当なものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う良問。資料から，イギリス支配下のアメリカ植民地を想起し，「大国の支配によって政治的危機が起こった点」と類似する3班のロシア支配下のポーランドを選択することが求められる。他の歴史的事象との類推に際し，事象の抽象化や言語化を通して概念的理解につながる点が評価できる。

3 分量・程度

分量は，五つの大問で構成されており，各大問5～8問，全32問が出題された。従来の世界史B

に比べ問題数が減少し、資料を丁寧に読ませ深く考察させようとする意図が感じられる、試験時間に見合った適切なものであった。また、大学入学希望者の学力を問うものとしては、適切な難易度であった。歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察し、概念的に理解しているかを問う問題が様々に工夫された様式で出題されていた。

まず、知識・技能を問う良問として2問取り上げる。11は、百年戦争の過程におけるイングランドの大陸所領の推移に関して、概念的理解を問う問題である。受験者は、イングランドの大陸所領の範囲を記憶していなくても、百年戦争についての包括的な理解を踏まえながら会話文を読み取ることで、正答に至ることができる。会話文の情報を参考に、時間軸を通して地図を読み取らせる問題であった。一方で、29は、文字資料から17世紀の清朝による貿易制限が人々の生活にもたらした困難に関して、貨幣の供給が減少したことによる物価下落という経済的な概念的理解を問う問題となっている。資料から、17世紀の清朝では現金が不足していて物価が下落しても商品を購入することができない状況を読み取り、メモからは清朝の康熙帝が貿易制限を行い、そのため輸入に依存していた銀が国内流入しなくなってしまったことを読み取る。17世紀の清朝に関する包括的理解を基に、丁寧に資料とメモを読み取り、17世紀の清朝における物価下落の原因について理解を問う問題である。

思考力・判断力・表現力等を問う良問としては3問取り上げる。13は、百年戦争の終結についての考え方を、他の歴史的事象へと類推する問題である。戦争終結について、1475年とする考え方は戦争停止の条約締結をもって終結とし、1492年とする考え方は王位継承の条約締結をもって終結とすることが会話文から読み取れる。中世ヨーロッパで起こった百年戦争の終結に関する異なる二つの歴史の見方を、古代のポエニ戦争の終結と近世のスペイン継承戦争の終結との共通性がみられるかどうかを判断させている。15は類型化の問題である。3か国の分類の仕方から、カテゴリー化された歴史的特性について考察し、インドとの共通性や差異を判断していく問題である。これらの問題のように歴史的事象の類似・差異に着目することは、歴史総合の学習を通じて習得する歴史の学び方であり、世界史探究においてもその学び方を活用している点で高く評価できる。

19は、仮説の根拠をメモから論理的に構築していき、因果関係を明確にしていく過程が求められている。イスラーム教の性別規範、権力と貿易利益の関係性を基に、アチェ社会について包括的に知識を組み立てていくことで解答することができる。問題を解いた後に、東南アジアにおける女性君主の存在に関して、概念的理解に到達できるよう設計された優れた思考問題である。

4 表 現・形 式

今回の問題では、全体を通して、文字資料、統計資料、地図、図版資料など様々な資料が提示されていた。また、特色の異なる複数の資料を組み合わせることで、単に資料の読み取りにとどまらず読み取った情報を基に思考を促す問題が多く、資料の使い方に工夫がみられた。例えば、第2問Cのスライドでは、イギリスが提示したインドの独立案に関する概念図を示し、会話文から読み取れる情報と組み合わせることで、インドの独立に関する概念的理解を問う問題となっている。また、第5問の問5では、受験者にとってなじみのある「アメリカ独立宣言」の資料を用いているが、資料から読み取れる事柄と他の歴史上の事例との類似性を問うことで、歴史的な見方・考え方を働かせるような資料の活用の仕方を示している。さらに、第4問Aに示された紀元前2世紀～紀元前1世紀のアジアにおける東西交易についての図は、資料と組み合わせることで、張騫が皇帝に勧めたルートについて選択させる問題となっており、実際に生徒がよく知る敦煌経由のオアシスロードではなく、蜀を経由するルートを献言している点で、匈奴の強大さについて理解させる問題になっている。このように、生徒自身による歴史の問い直しを促すような問題としては、他に第4問Bを挙

げることができる。表に示されたアフリカから奴隷として連れ出された人数の推計と四つの地域における割合を示す統計と会話文の情報や知識を組み合わせ、奴隷貿易の特色が時代によって異なり一様ではないことに気づかせ、更に自由主義への過渡期にあったイギリスによる奴隷貿易と奴隷制の区別について思考させる問題となっている。このように、生徒の既有知識に対して認知的葛藤を引き起こし、歴史を再構築させるような問題がみられたことも高く評価したい。

問題の場面設定についても、「主体的・対話的で深い学び」による世界史探究の授業場面を意識した工夫がみられた。第2問では資料を基にした会話文による問答、第3問では資料を基にしたレポート、メモ、仮説の検討、第4問では資料・表を基にした会話文やメモの検討が設定された。また、第5問でも、四つの班による主題学習が行われ、資料を基に探究した結果のパネルや探究過程にあるメモや会話文が提示され、日頃の探究的な世界史学習を想起する構成となっていた。さらに、第5問では、問1から問4までを総括する問題として問5が設定され、資料から読み取れることを抽象化し、四つの探究事例との類似性を判断させる類推問題が設定され、歴史の学び方が問われた。以上のように、各問題に段階や関連性が見みられ、全32問を通じて歴史の学び方を問う構造化の工夫がみられた点について大いに評価できる。

5 ま と め（総括的な評価）

共通テストに変わり、これまでの出題でも工夫が行われてきたが、今回の出題では、学習の文脈を設定し、知識を再構成することで包括的理解や概念的理解に至る問題が多くみられた。特に、ある歴史的事象を抽象化して、別の歴史的事象との類似点を探る類推を求める問題は評価に値する。歴史の学習者が歴史を類推のベースにして現代の問題の原因を多面的に分析したり、問題に対する解決法の選択肢を増やしたりする思考につながるからである。

また、第2問Bの百年戦争に関する問題のように、歴史学で歴史認識をめぐり議論になっている話題を取り上げて、資料から根拠を問うたり歴史的背景を踏まえたりと社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせることで正答に至る問題がみられた。こうした問題は、なぜ戦争は起こるのか、戦争が終結したとは何をもって言うことができるのかという、学習者が歴史を学ぶ際のみならず、平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者として生きていく中で直面する本質的な問いを生み出している。本年度の問題は、我々高校教員の歴史の授業を大きく前進させるための指針となっているだけでなく、歴史を学ぶことの意義を受験者に伝えていく大きな役割を担ったとすることができるのではないかと。

最後になったが、問題作成の委員の皆様は心より感謝を申し上げたい。問題から伝わる委員の皆様の優れた知見と勇気は、新しい歴史教育への大きな一歩である。今後も、受験者や歴史教員に世界史の知的興奮を与えてくれる問題作成に期待を申し上げる。